
第26回
日本家族社会学会大会
プログラム

2016年9月10日（土）・11日（日）

開催校・会場：早稲田大学戸山キャンパス

大会日程

会場：早稲田大学戸山キャンパス

▼第1日 2016年9月10日(土)

09:15～	受付開始	33号館1階
10:00～ 12:30	自由報告(1) ① 親子・養育・セクシュアリティ ② 教育・格差・ソーシャルキャピタル テーマセッション(1)企画全体提案型：男性の育児休業を促進する要因 国際セッション(1):ひとり親家族に対する差別、社会的排除、社会的支援に関する 日韓比較	331 332 333 第1会議室
12:30～ 14:00	昼休み 編集委員会(39号館6F第7会議室) 研究活動委員会(39号館5F第5会議室) 庶務委員会(39号館4F第4会議室) NFRJ委員会(39号館5F第6会議室)	
14:00～ 16:30	自由報告(2) ③ 結婚 ④ ワークライフ・バランス ⑤ 介護・終末期ケア テーマセッション(2)企画全体提案型：育児期の父親・母親のIT利用と 家庭生活—日本と韓国の比較から—	331 332 333 第1会議室
16:45～ 18:20	総会	38号館2階 AV教室
18:30～ 20:00	懇親会	38号館1階 カフェテリア

▼第2日 2016年9月11日(日)

08:30～	受付開始	33号館1階
09:00～ 10:30	自由報告(3) ⑥ コミュニティとエスニシティ ⑦ 家族史 テーマセッション(3)報告者公募型：学会のグローバル化と非英語圏からの 発信—アジア地域からの留学生の視点を通して— テーマセッション(4)企画全体提案型：人口集中する大都市圏の人口移動と 単身世帯化—新宿区の人口・世帯動態と増加する壮年単身者の実態— ラウンドテーブル：NFRJ98-08は何を明らかにしてきたか	331 332 333 第1会議室 第8会議室
10:45～ 12:45	自由報告(4) ⑧ 家事・育児 ⑨ 不妊と生殖補助医療 テーマセッション(5)報告者公募型：きょうだいの家族社会学 国際セッション(2):Changes and Current Issues on Families in East Asia: Toward the East Asian Social Survey 2016	331 332 333 第1会議室
12:45～ 14:00	昼休み 編集委員会(39号館6F第7会議室) 研究活動委員会(39号館5F第5会議室) 庶務委員会(39号館4F第4会議室) NFRJ委員会(39号館5F第6会議室) シンポジウム打ち合わせ(33号館8F第8会議室)	
14:00～ 16:45	公開シンポジウム 専門家による家族介入の現在—家族を外側から支える実践—	38号館2階 AV教室

大会プログラム

第1日 9月10日(土)

受付開始(33号館1階)

9:15～

午前部

10:00～12:30

自由報告(1)

①親子・養育・セクシュアリティ(331)

司会 西野理子(東洋大学)

- ①-1 帰家からみるライフコースの変容
—JGSS-2009LCSを用いた居住歴の縦断分析—
- ①-2 女性はどのような母娘関係を営んでいるのか
—インタビュー調査から—
- ①-3 震災による親族養育者の家族意識および養育者と
子どもの関係
—岩手・宮城・福島県における親族養育に関
する調査より—
- ①-4 非異性愛者をもつ家族のカミングアウト事情と
「ふつう」の書きかえ
- ①-5 同性愛(者)に対する意識とジェンダー・家族に
関する意識との関連性
—2015年全国調査データを用いた分析—

吉田俊文
工藤京子(立教大学・院)
和泉広恵(日本女子大学)
元山琴菜(大阪経済大学)
釜野さおり(国立社会保障・人口問題研究所)

②教育・格差・ソーシャルキャピタル(332)

司会 吉川 徹(大阪大学)

- ②-1 家庭内社会化と社会空間
—教育期待の形成メカニズムに関する分析—
- ②-2 ひとり親世帯と子どもの学業達成の国際比較
- ②-3 子供の貧困とジェンダー問題
- ②-4 ソーシャルキャピタルの視点から見た中国高齢者
の家族関係と幸福度
—都市部と農村部との比較—
- ②-5 中国帰国者二世の帰国選択と帰国援護政策
—両者の相互関連を中心に—

林川友貴(東京大学・院)
斉藤知洋(東京大学・院)
Nennstiel, Ulrike(北星学園大学)
叶 妍(早稲田大学)
張 龍龍(早稲田大学・院)

テーマセッション(1) 企画全体提案型

男性の育児休業を促進する要因—育児休業取得者へのヒアリングから見えてきたこと—(333)

オーガナイザー・司会 石井クンツ昌子(お茶の水女子大学)

- (1)-1 統計からみる父親の育児休業の変遷と現状
- (1)-2 育児休業を取得できた要因を中心とした事例研究
—育児・介護休業法改正後に取得した父親と
改正前に取得した父親の比較—
- (1)-3 育児休業を取得した父親を支えるネットワーク
- (1)-4 育児休業を取得した父親の職業生活
- (1)-5 妻にとっての夫の育児休業
—育児休業取得期間とタイミングに注目して—

石井クンツ昌子(お茶の水女子大学)
林 葉子(跡見学園女子大学)
高山純子(お茶の水女子大学・院)
尾曲美香(お茶の水女子大学・院)
林田香織(お茶の水女子大学・院)

討論者 多賀 太(関西大学)

国際セッション (1)

ひとり親家族に対する差別、社会的排除、社会的支援に関する日韓比較 (第1会議室)

オーガナイザー・司会 神原文子 (神戸学院大学)

- | | |
|--|-------------------|
| (1)-1 韓国におけるシングルマザー家庭の実態に関する研究 (韓国語: 通訳有) | チョン ソンヒ (協成大学校) |
| (1)-2 韓国における離婚女性の自立経験 (韓国語: 通訳有) | ソン チョンヒョン (協成大学校) |
| (1)-3 子づれシングル女性の生きづらさから自立条件を探る | 神原文子 (神戸学院大学) |
| (1)-4 非婚母と社会的ネットワーク
—多様性と共通点、そして変化を手がかりに— | 田間泰子 (大阪府立大学) |

昼食・委員会

12:30 ~ 14:00

午後の部

14:00 ~ 16:30

自由報告 (2)

③結婚 (331)

司会 村上あかね (桃山学院大学)

- | | |
|--|---|
| ③-1 ライフコースをめぐる未婚女性の意識
—「理想」と「予想」のギャップ— | 中村真理子 (国立社会保障・人口問題研究所)
余田翔平 (国立社会保障・人口問題研究所) |
| ③-2 結婚する人びとにとって親の意識・行動はどのように関わるのか | 府中明子 (千葉大学・院) |
| ③-3 職業経歴が結婚への移行に与える影響
—年齢による効果の変化と男女差に着目して— | 麦山亮太 (東京大学・院) |
| ③-4 若年雇用と結婚経験の関係の国際比較分析
—欧州と比較した日本とアジアの特徴— | 松田茂樹 (中京大学) |

④ワークライフ・バランス (332)

司会 筒井淳也 (立命館大学)

- | | |
|--|---|
| ④-1 日本における女性の育児休業取得の規定要因と取得がその後の就業に与える影響
—JGSSライフコース調査を用いた計量分析— | 打越文弥 (東京大学・院) |
| ④-2 小4の壁と中1の壁
—社会生活基本調査でみる仕事と育児の両立の新たな難所— | 仙田幸子 (東北学院大学) |
| ④-3 東京大都市圏に居住する夫婦の最終的な子ども数はなぜ少ないのか
—第4回・第5回全国家庭動向調査を用いた人口学的検討— | 山内昌和 (国立社会保障・人口問題研究所) |
| ④-4 香港で働く日本女性のキャリア形成 | 開内文乃 (青山学院大学) |
| ④-5 海外日本人駐在員の家族意識
—性別役割分業意識と妻のキャリアパスに着目して— | 早川美也子
(Ecole des Hautes Etudes en Sciences Sociales) |

⑤介護・終末期ケア (333)

- ⑤-1 介護者における介護負担感とその要因
—被介護者と介護者の関係による違い—
- ⑤-2 日本の家族介護における介護タスク分担の可能性
—米国の介護タスク分担の状況から—
- ⑤-3 特別養護老人ホームの看取りにおける血縁家族への固執と譲歩の様相
- ⑤-4 家族に「私」をどこまで伝えるか
—終末期の準備行動におけるアンビバレンス—
- ⑤-5 終末期ケアの希望を事前に家族に伝えるということ

司会 後藤澄江 (日本福祉大学)

大風 薫 (お茶の水女子大学)

涌井智子 (東京都健康長寿医療センター研究所)

原沢優子 (名古屋市立大学)

島田千穂 (東京都健康長寿医療センター研究所)

平山 亮 (東京都健康長寿医療センター研究所)

平山 亮 (東京都健康長寿医療センター研究所)

島田千穂 (東京都健康長寿医療センター研究所)

中里和弘 (東京都健康長寿医療センター研究所)

島田千穂 (東京都健康長寿医療センター研究所)

平山 亮 (東京都健康長寿医療センター研究所)

中里和弘 (東京都健康長寿医療センター研究所)

テーマセッション (2) 企画全体提案型

育児期の父親・母親のIT利用と家庭生活—日本と韓国の比較から— (第1会議室)

オーガナイザー・司会 牧野カツコ (宇都宮共和大学)

- (2)-1 未就学児を持つ母親のIT利用と生活充実感
- (2)-2 子育て期の母親のIT利用と子育てに関する意思決定
- (2)-3 父親のIT利用と育児参加・父親アイデンティティ・成長認識の関連
- (2)-4 育児に関するコミュニケーション形態と親としての成長認識
- (2)-5 父親・母親のIT利用と子どもへのコミットメント
- (2)-6 育児期の親のIT利用と親族サポート

岡村利恵 (お茶の水女子大学・院)

中川まり (お茶の水女子大学)

佐々木卓代 (お茶の水女子大学)

高丸理香 (お茶の水女子大学・院)

加藤邦子 (川口短期大学)

劉 楠 (山形大学)

討論者 李 璟媛 (岡山大学)

総会 (38号館2階AV教室)

16:45 ~ 18:20

大会実行委員長挨拶

報告事項

協議事項

学会賞 (奨励論文賞) 授与式

特別報告 熊本地震での避難所運営を経験して—社会的視点からの一考察—

山西裕美 (熊本学園大学)

懇親会 (38号館1階カフェテリア)

18:30 ~ 20:00

第2日 9月11日(日)

受付開始(33号館1階)

8:30～

午前の部1

9:00～10:30

自由報告(3)

⑥コミュニティとエスニシティ(331)

司会 木下栄二(桃山学院大学)

- ⑥-1 コレクティブハウジング居住を通じた近隣コミュニティの構築と家族生活
—「家族・コミュニティ問題」を手がかりに—

稲見直子(大阪大学, 日本学術振興会)

- ⑥-2 子育てを支える職員の処遇に関わる親たちの活動
—フランスの子ども・親・職員アソシアシオンを通して—

木下裕美子(甲南女子大学)

- ⑥-3 西欧のイスラム移民二世における兄弟姉妹構成とハラール食品消費行動

小島 宏(早稲田大学)

⑦家族史(332)

司会 千田有紀(武蔵大学)

- ⑦-1 昭和初期「右翼的」労働運動における家族主義とジェンダー
—近代化・民族主義と男性性との関連分析に向けて—

海妻径子(岩手大学)

- ⑦-2 「家庭」概念と消費
—1930年代の『新家庭』の記事分析から—

木村未和(お茶の水女子大学・院)

- ⑦-3 戦後の「純潔教育」言説の展開
—1947年～1972年『讀賣新聞』における「純潔教育」関連記事を中心に—

柳園順子(姫路大学)

テーマセッション(3) 報告者公募型

学会のグローバル化と非英語圏からの発信—アジア地域からの留学生の視点を通して—(333)

オーガナイザー・司会 施 利平(明治大学)

山根真理(愛知教育大学)

- (3)-1 アジア地域からの「もう一つのグローバル化」
—東アジアの少子高齢化を中心に—

金 香男(フェリス学院大学)

- (3)-2 中国の家族構成と中国人留学生の友人ネットワーク

李 文(同志社大学・院)

- (3)-3 中国人若年層女性の就職活動における困難と葛藤

田 嬢(お茶の水女子大学・院)

テーマセッション(4) 企画全体提案型

人口集中する大都市圏の人口移動と単身世帯化

—新宿区の人口・世帯動態と増加する壮年単身者の実態—(第1会議室)

オーガナイザー 宮本みち子(放送大学)

司会 大江守之(慶應義塾大学)

- (4)-1 公的統計から描き出される新宿区の実態

大江守之(慶應義塾大学)

- (4)-2 意識調査から見る単身者の特徴

丸山洋平(福井県立大学)

—単身者の社会的孤立—

- (4)-3 聞き取り調査から見る単身者の特徴

宮本みち子(放送大学)

—経済的安定度と社会的孤立のリスクから—

ラウンドテーブル

NFRJ98-08は何を明らかにしてきたか（第8会議室）

オーガナイザー 永井暁子（日本女子大学）

田淵六郎（上智大学）

討論者 稲葉昭英（慶應義塾大学）

保田時男（関西大学）

西村純子（明星大学）

午前の部2

10:45～12:45

自由報告（4）

⑧家事・育児（331）

⑧-1 主婦の価値規範意識と主婦像に関する研究

—女性雑誌『I LOVE mama』が描くギャルママ像—

⑧-2 現代日本における「子育てする父親像」の多様性

—ジェンダー規範とイメージ・実践—

⑧-3 大学生用コペアレンティング・プログラム作成の試み

⑧-4 パートナー関係の形成による家事頻度の個人内変化

司会 品田知美（城西国際大学）

高橋香苗（明治大学・院）

巽 真理子（大阪府立大学）

大島聖美（広島国際大学）

不破麻紀子（首都大学東京）

柳下 実（首都大学東京・院）

⑨不妊と生殖補助医療（332）

⑨-1 戦後日本の身の上相談における不妊事例

⑨-2 男性不妊をめぐる生きづらさとアイデンティティ

—男性不妊治療を経験した夫たちの語りから—

⑨-3 産婦人科・生殖医学で広報・政治活動に使われている

グラフの科学的根拠の検討

司会 白井千晶（静岡大学）

由井秀樹（立命館大学）

竹家一美（お茶の水女子大学・院）

田中重人（東北大学）

テーマセッション（5）報告者公募型

きょうだいの家族社会学（333）

オーガナイザー 久保田裕之（日本大学）

司会 安達正嗣（高崎健康福祉大学）

(5)-1 きょうだいの家族社会学—家族におけるナナメ関係の検討—

(5)-2 きょうだいへのサポート期待と家族関係

—NFRJ-08Panelデータによる分析から—

(5)-3 きょうだい順位と世代間移動の趨勢

—きょうだいデータによるアプローチ—

久保田裕之（日本大学）

吉原千賀（高千穂大学）

苫米地なつ帆（東京大学）

三輪 哲（東京大学）

討論者 岩上真珠（聖心女子大学）

国際セッション (2)

Changes and Current Issues on Families in East Asia : Toward the East Asian Social Survey 2016

(第1会議室)

	オーガナイザー・司会	Iwai, Noriko (Osaka University of Commerce)
(2)-1 Japan, China, Taiwan, and South Korea : Evidence from Macro Statistics and EASS 2006	岩井紀子	Iwai, Noriko (大阪商業大学)
(2)-2 Women and Family in Transitional China	謝 桂華	Xie, Guihua (中国人民大学)
	李 星辰	Li, Xincheng (中国人民大学)
(2)-3 The Intergenerational Transmission of Gender Role Attitudes in Taiwan	張 晉芬	Chang, Chin-fen (中央研究院社会学研究所)
(2)-4 韓国の家族およびジェンダー役割の変化と現状	陳 玉華	Chen, Yu-Hua (国立台湾大学)
	曹 成虎	Cho, Sungho (韓国保健社会研究院)

昼食・委員会

12:45 ~ 14:00

午後の部

14:00 ~ 16:45

公開シンポジウム

専門家による家族介入の現在—家族を外側から支える実践— (38号館2階AV教室)

司会 和泉広恵 (日本女子大学)

野沢慎司 (明治学院大学)

家族療法のいくつかの考え方

中村伸一 (中村心理療法研究室)

家族関係の再編成の観点から見た家事調停の現状と課題

原田綾子 (名古屋大学)

—未成年の子がいる夫婦の離婚事件の処理に焦点を当てて—

障害者福祉制度は障害者家族の親子関係をどのように変えたのか

中根成寿 (京都府立大学)

—ケアの社会的分有、その後について—

討論者 天田城介 (中央大学)

松木洋人 (大阪市立大学)

* 本大会のシンポジウムは、本学会員のみならず他の関連学会員や家族支援に関わる一般の方々などにも広く関心を持たれるテーマであると考え、シンポジウムのみを一般公開 (参加費無料) とします。

ただし、非会員でシンポジウムのみ参加者は、会場の都合により、先着100名までとします。

希望者は、公開シンポジウム参加申し込みメールアドレス <jsfs-sympo@bunken.co.jp>宛に「家族社会学会公開シンポジウム参加希望」と明記の上、お名前、ご所属、連絡用メールアドレスを書き添えて、お申し込みください。

申し込み締め切りは2016年8月31日です。

連絡事項

1. 参加登録及び参加費等の事前納付

● 大会参加登録

大会参加を希望される会員は、出来る限り、事前に参加登録と参加費等の納付を済ませてください。
Web が利用できる環境の方は、日本家族社会学会第 26 回大会ホームページ（日本家族社会学会ホームページより入る）から登録できます。ログイン名とパスワードが必要です。ログイン名は、学会からの送付物のタックシールに記載されている番号（数字 8 桁；上 4 桁は数字の 0、下 4 桁は会員名簿に記載されている数字）です。パスワードが不明な場合は、「会員専用ページ」から問い合わせてください。
Web が利用できない環境の方は、同封されている登録票を用いて、ファックスまたは郵送で登録をお願いします。送信・郵送先は、日本家族社会学会大会ヘルプデスク（Fax: 03-5227-8632、〒162-0801 新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター）です。

● 大会参加費・懇親会費の事前納付

事前納付は、同封されている郵便振替票（00110-7-512376、加入者名・日本家族社会学会大会）を用いての振込、あるいは、オンラインでの参加登録の際にカードでお支払いください。オンラインで参加登録されるときに、「決済方法」を「クレジット」にチェックすると、参加登録と事前納付が同時にできます。

なお、参加登録を当日行い、その場で支払うこともできますが、当日の受付業務の軽減のためにも、事前の参加登録と参加費等の納付をお願いします。事前登録された方には、ネームカードを用意します。事前に納付される方は、以下の通り、参加費等が割引となります。事前に登録されても、期限までに納付されない場合は、当日払いの費用になりますので、ご注意ください。

<<郵便振込みの場合>> *手数料は本人負担となります（以下は手数料抜きの場合）。

郵便振替口座番号：00110-7-512376 加入者名：日本家族社会学会大会

一般：大会参加費（事前納付 3,500 円、当日払い 4,500 円） *要旨集代含む
懇親会費（事前納付 3,500 円、当日払い 4,500 円）

学生・会費減額申請が承認された会員：

大会参加費（事前納付 2,500 円、当日払い 3,000 円） *要旨集代含む
懇親会費（事前納付 2,500 円、当日払い 3,000 円）

*昼食は生協カフェテリアをご利用ください。事前予約は不要です。

<<カード払いの場合>>

一般：大会参加費（事前納付 3,500 円） *要旨集代含む
懇親会費（事前納付 3,500 円）

学生・会費減額申請が承認された会員：

大会参加費（事前納付 2,500 円） *要旨集代含む
懇親会費（事前納付 2,500 円）

2. 事前登録・事前納付の期限

- 大会参加の事前登録と参加費等の事前納付の期限は、次の通りです。

	参加登録期限	参加費等事前納付期限
①Web による参加登録 +郵便振替による納付	8 月 22 日(月)	8 月 22 日(月)
②登録票送付(fax もしくは郵送) +郵便振替による納付	8 月 19 日(金) 大会ヘルプデスク必着	8 月 22 日(月)
③Web による参加登録 +カード支払い	8 月 24 日(水) 24 時まで	8 月 24 日(水) 24 時まで

- ①の場合は、Web 上の参加登録及び郵便振替による参加費等の納付ともに締切は 8月22日(月)です。
- ②の場合は、郵便振替による参加費等納付の期限は①と同じく 8月22日(月)ですが、登録票の郵送もしくはファックス送信の期限は 8月19日(金)です。お間違えのないようにお願いします。
- ③の場合は、Web 上で参加登録と参加費等の納付を同時に行うこととなります。その期限は 8月24日(水)24時です。
- いずれの方法を採られる場合も、上記の期限は厳守してください。とくに期限を過ぎた参加費等の納付は「事前納付」とはみなさず、大会受付で、当日料金との差額をいただきます。
- いずれの方法を採られる場合も、参加費等を事前納付された後は、万一、大会にご出席できなくなっても、参加費等の払い戻しはできません。報告要旨集は後日郵送いたします。
- 常勤職にないなどの理由による会費減額申請の受付は 2016 年 6 月 28 日に終了しています。現段階で承認を受けている方のみが学生会員と同じ料金設定になります。
- 非会員で参加をご希望の方は、参加費等の事前納付の対象にはなりませんので、大会当日に受付までお申し出ください。非会員の方の参加費は、報告要旨集を含んで、一般 4,500 円、学生 3,000 円、懇親会費は一般 4,500 円、学生 3,000 円です。
- 大会の参加受付は、第 1 日目 (9 月 10 日) は午前 9 時 15 分、第 2 日目 (9 月 11 日) は午前 8 時 30 分からです。

3. その他の注意事項

- **報告要旨集**
大会当日受付でお渡しいたします。また、8 月 30 日 (火) には大会ホームページ上で公開いたしますので、事前にご覧になりたい方はアクセスしてください。
- **懇親会**
大会第 1 日目 (9 月 10 日) 午後 6 時 30 分より、生協カフェテリアにて懇親会を開催いたします。多くの会員と交流するチャンスです。ご参加いただければ幸いです。なお、懇親会費につきましても、ご欠席の場合の払い戻しはいたしませんので、ご了承ください。
- **昼食**
両日とも生協カフェテリアをご利用いただけます。営業時間は 11:30~14:00 です。2 種のセットメニュー (¥500) とカレー等を用意してお待ちしています。コンビニ等は、地下鉄早稲田駅周辺にありますので、ご利用ください。
- **宿泊**
宿泊につきましては、各自でお願いいたします。この時期、都内の宿泊施設は混雑が予想されます。予約は早めにご手配ください。

4. 研究報告者および司会者の方々へ

- 自由報告の報告時間は 20 分、質疑応答は 5 分です。報告者と司会者は、セッション開始 10 分前に会場の前方に集合してください。報告者ご自身の報告開始時間のいかににかかわらず、この時間に集合し、配布資料を会場係の学生にお渡しください。
- **大会当日の配布資料**
自由報告は 50 部、テーマセッション報告は 100 部を各自でご用意ください。会場でのコピー・サービス、配布資料の会場への事前送付には対応できませんので、ご了承ください。
- **自由報告・テーマセッションの司会者の方へお願い**
参加者の便宜のため、報告者の進行時間を厳守してください。当日報告者に欠席が生じた場合は、報告者の順番を詰めて進め、欠席があったことを会場入り口に掲示してください。
- **PowerPoint 等の使用に関する注意事項**
 - a. 報告会場となるすべての教室では、教卓にノート型パソコン (Windows7 Service Pack 1, Microsoft Office 2010 Service Pack 2) が備え付けられています。
 - b. Microsoft-Power Point 2010 の pptx もしくは ppt 形式、あるいは PDF 形式で保存したデータを USB メモリに記録してお持ちください。
 - c. 機器を使用する報告者は、部会開始 15 分前に報告会場となる教室におこしください。機器使用に関する準備・打ち合わせなどを行いません。
 - d. 開催校ではできるかぎり準備と協力をいたしますが、機器操作の結果につきましては報告者の自

己責任でお願いします。万が一機器が作動しない場合に備えて、複写して配布可能な印字原稿を用意いただくなど、次善の方策もお考えください。

- e. どうしてもご自分のパソコンを持ち込んで使用なされたい場合、開催校では RGB ケーブルおよび HDMI ケーブルのみをご用意しています。
- f. レーザーポインタなど、他に必要とされる機器はご自身で用意ください。

5. 大会期間中の託児室の設置

- 大会中、NPO法人保育サービス「つくしんぼ」による託児サービスを学内に用意いたします。ただし利用は事前に申し込みをされた方に限ります。利用をご希望の方は、日本家族社会学会大会ホームページをご覧になり、利用要領をご了解のうえ、8月22日（月）17:00までに大会実行委員会へメールにてお申し込みください。お問合せも下記アドレスまでお願いいたします。
申し込み先：大会実行委員会事務局メールアドレス jsfs-taikai@bunken.co.jp

6. その他

- 例年同様、出版社に書籍・雑誌を展示・販売いただくコーナーを開設いたします。申し込み・問い合わせは大会実行委員会事務局宛にメールにてご連絡ください。
- 例年同様、抜き刷り交換コーナーを設けます。なお当日の抜き刷り冊子の管理（展示、撤収など）については各自の責任で行ってください。
- 大会に関してご不明な点などありましたら、大会実行委員会事務局宛にメールにてお問い合わせください。
- 大会ホームページ（<http://www.wdc-jp.com/jsfs/conf/2016/index.html>）にも同様の内容を掲載しています。

会場案内

【会場・連絡先】

大会実行委員会事務局：早稲田大学文学部
嶋崎尚子研究室
住所：〒162-8644 東京都新宿区戸山 1-24-1
メールアドレス：jsfs-taikai@bunken.co.jp
大会本部（大会当日）：33号館3階第2会議室

【会場へのアクセス】

電車

地下鉄東京メトロ東西線 早稲田駅から徒歩3分

JR 山手線 高田馬場駅から徒歩20分

西武新宿線 高田馬場駅から徒歩20分

副都心線 西早稲田駅から徒歩12分

バス

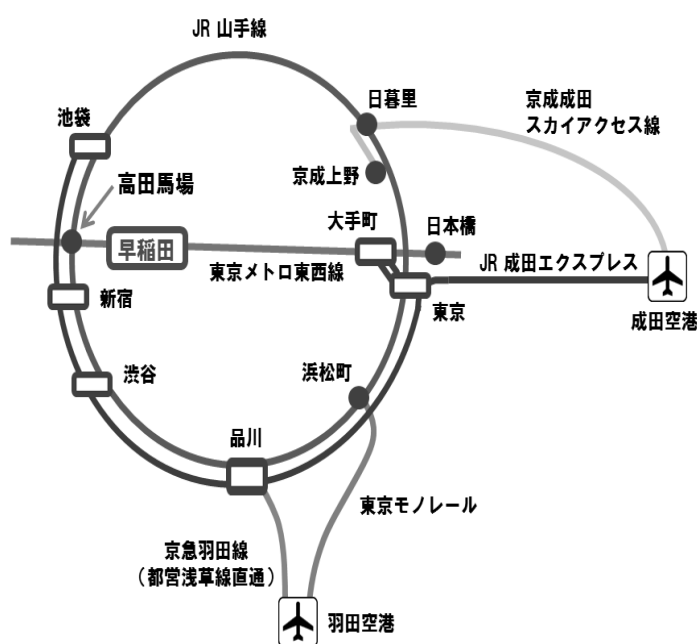
学バス：高田馬場駅 - 早大正門、馬場下町バス停で下車

成田空港

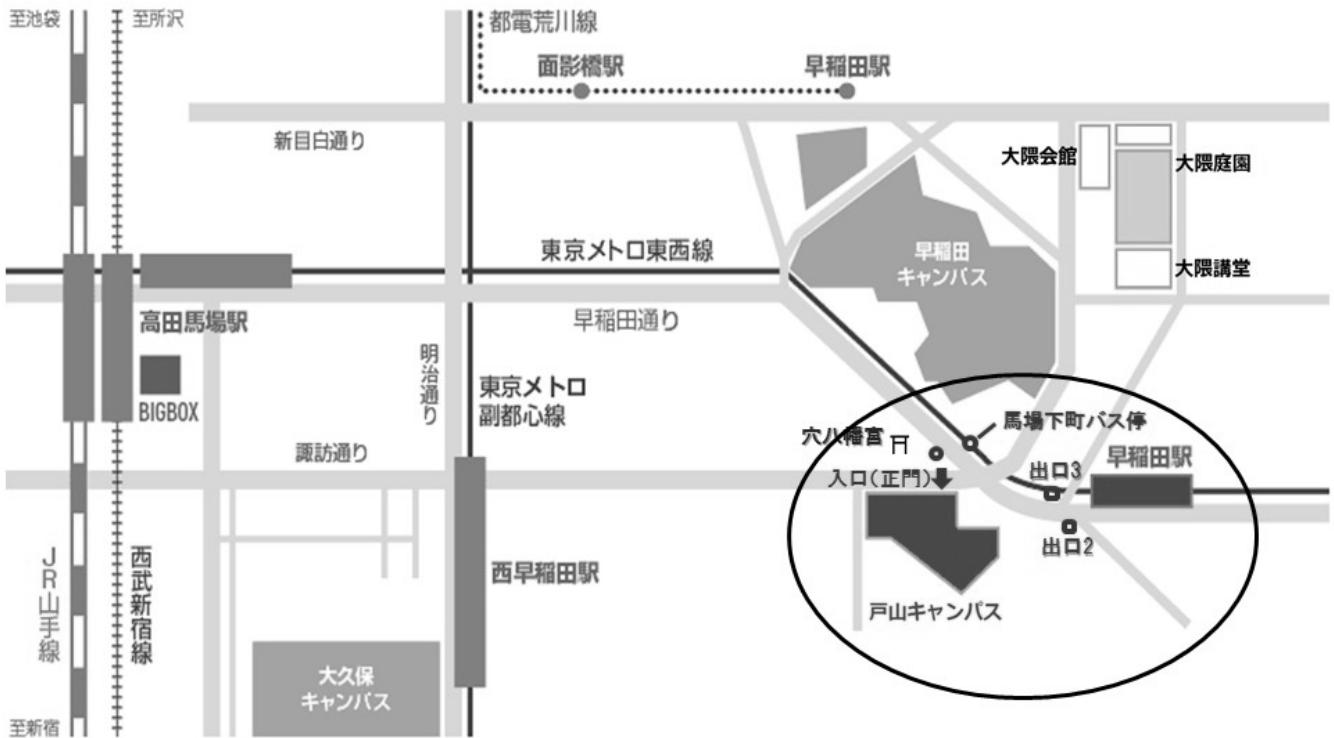
- 成田国際空港から JR 成田エクスプレス利用で約1時間50分
成田エクスプレス「新宿駅」乗換；JR 山手線「高田馬場駅」乗換；東京メトロ東西線「早稲田駅」
- 成田国際空港からリムジンバス利用で約2時間
リムジンバスにて「新宿駅（西口）」JR 山手線「高田馬場駅」乗換；東京メトロ東西線「早稲田駅」
- 成田国際空港から京成スカイライナー利用で約2時間
京成スカイライナー「上野駅」乗換；東京メトロ銀座線「日本橋駅」乗換；東京メトロ東西線「早稲田駅」

羽田空港

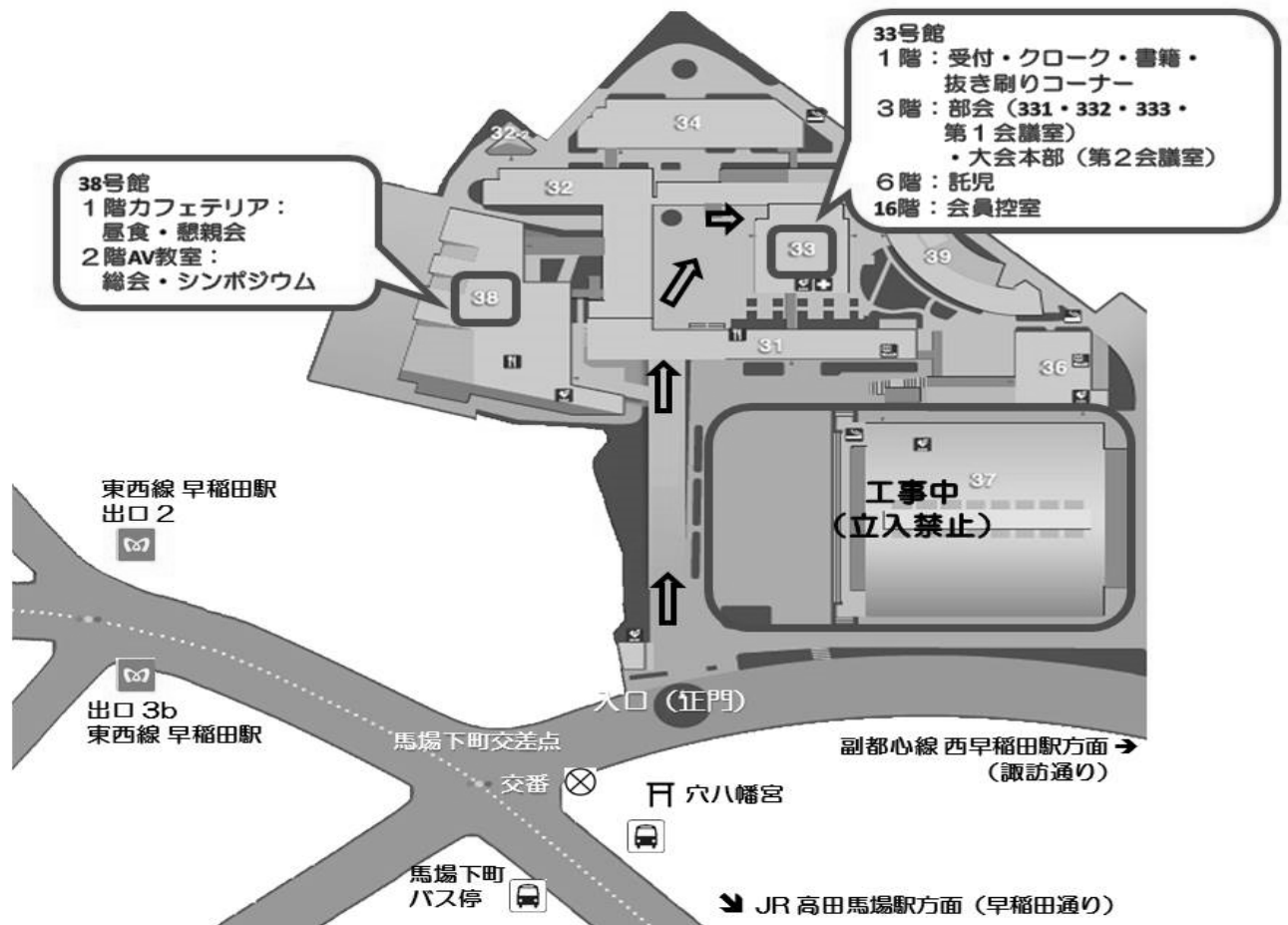
- 東京国際空港（羽田空港）から京浜急行利用で約1時間
京浜急行羽田線（都営地下鉄浅草線直通）「日本橋駅」乗換；東京メトロ東西線「早稲田駅」



【大学周辺地図】



【戸山キャンパス内地図】



【大会実行委員】

実行委員長：嶋崎尚子

実行委員：池岡義孝、大久保孝治、木村好美、小島宏、畑山直子、本多真隆（早稲田大学）